

教科(科目)	芸術(書道Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年（全クラス）
使用教科書	光村図書『書1』				
副教材等	ペン習字の基礎（教育図書）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

○グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

～卒業までにこのような資質・能力を育みます～

- ① 主体的に課題を見つける感覚を養い、自ら学び、解決策を創造する資質・能力と産業社会で求められる倫理観と規範意識を育成します。
- ② 生涯にわたって学び続ける意欲を養い、新たな産業に柔軟に対応する自己指導力を育成します。
- ③ 国際的視野に立って考える姿勢を養い、地域の発展と豊かな暮らしに貢献するために必要な思考力、発想力を育成します。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～

- ① 共通教科の学びを強化して、基礎学力の定着を図ります。
- ② 工業高校で学ぶ基本的な知識や技術を習得し、課題研究や新しいIT技術について、主体的な学び方と実践する場を設定します。
- ③ 将来、国内・国際社会で活躍するために必要なコミュニケーション能力や英語力の向上を図り、多様な価値観を持つ仲間との協働的学習を行います。

2 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 指導の重点

文字を素材とした表現活動を中心とし、さまざまな題材について表現のねらいを持ちながら自己表現を展開していく。

- ・ 「漢字の書」の学習では、書体の変遷を学習しさまざまな書体・書風にふれることによって表現技術を高め、それらを創作に生かしていく。
- ・ 「漢字仮名交じりの書」の学習では、身近にある題材や自らの思いや感動を表す語句を選んで表現し、芸術的な表現だけでなく、実用的な表現も高めていく。
- ・ 「仮名の書」の学習では、その成り立ちを理解し、臨書学習を通し美しさや表現方法を学んでいく。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 漢字仮名交じりの書：用具・用材の特徴と表現効果を理解し、目的や用途に即した表現の技能を身につけている。線質・字形・構成等の要素と表現効果や風趣との関わりを理解している。 ・ 漢字の書：古典の書風と用具・運筆の関係を理解し、それに基づく表現の技能を身につけようとしている。 ・ 仮名の書：用筆・運筆を理解し、その技能を身につけようとしている。	・ 漢字仮名交じりの書：書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 ・ 漢字の書：それぞれの古典を比較分析し、特徴を生かして臨書に生かしている。創作では、その表現の意図や技法の効果について構想し、表現を工夫している。 ・ 仮名の書：書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	・ 漢字仮名交じりの書：創造的活動に関心を持ち、粘り強く、主体的に表現している。 ・ 漢字の書：創造的活動の喜びを味わい、書の伝統的な文化に関心を持ち、主体的に表現している。 ・ 仮名の書：創造的活動に関心を持ち、主体的に表現している。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次とおりです。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
	以上の観点を踏まえ、 ・ 学習活動への参加態度 ・ 学習の記録 ・ 試書の記録ファイル などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 作品構想カードの記入状況 ・ 試書の記録ファイル などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 学習活動への参加状況や授業態度 ・ 学習の記録への記入状況 ・ 試書の記録ファイル などから評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4 5 6 7	書へのいざない 漢字の書 漢字仮名交じりの書	11 楷書 11 行書	孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘、雁塔聖教序、顔氏家廟碑 蘭亭序、風信帖、争坐位文稿、蜀素帖	・ 書の幅広い活動を通して、その見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書の伝統と文化に関わる資質、能力を育成する。 ・ 初唐の四大家による楷書、行書の古典文字の書風の違いを感じ取り、鑑賞と臨書により表現する。 ・ 漢字仮名交じり書では、言葉に注目させる教材で主体的に自己表現できるようにする。	a b c a b c	・ 提出物 ・ 授業に向き合う態度
8 9 10 11 12	篆刻 篆字	13 印を作ろう 13 表札を作ろう		・ 様々な篆刻作品を鑑賞し、自分の印を作る。 ・ 漢字の書の学びを生かして表札を作る。	a b c a b c	・ 提出物 ・ 授業に向き合う態度
1 2 3	仮名の書 漢字仮名交じりの書	11 蓬萊切 高野切一種・三種 11 作品製作		・ 仮名の書では、古典を通してその用筆法、連綿を理解し、臨書、創作を行う。 ・ 暮らしの中の書、実用的な書を学習する。	a b c a b c	・ 提出物 ・ 授業に向き合う態度

計 70 時間(50 分授業)

7 課題・提出物等

・ 作品構想カード ・ 作品

8 担当者からの一言

書道では、単に文字を書く技術を上達させるだけではなく、文字が伝えられてきた文化に触れ、その文化・歴史を少しでも深く理解しようとすることを通じて感受性を磨き、心の豊かさを今まで以上に感じられるようにできれば、そのような思いを込めて授業に取り組んでいきます。
